

「2020年版建築物の構造関係技術基準解説書」露出型柱脚の設計フローにおける
「基礎コンクリートの破壊防止等の確認」について

「2020年版建築物の構造関係技術基準解説書」の露出型柱脚の設計フローにおける「基礎コンクリートの破壊防止等の確認」について、以下の3項目が記されています。

- a) 縁辺の剥落
- b) 立ち上げ部の割裂
- c) 端部のせん断力による剥落

上記の項目について、ジャストベース (JE II 型) 柱脚工法は、基礎柱検討時において、標準基礎柱型断面寸法及び拡大基礎柱型断面寸法でコーン破壊検証、せん断・曲げ検証を行い評定委員と検討し、梁が存在する状態で実大実験を行い、基礎柱型が破壊しない事を確認しています。

また、柱脚耐力について、アンカーボルト降伏強度とコンクリート支圧強度の範囲内で柱脚降伏耐力を設定しており、設計、実験検証に基づき基礎破壊及びコーン状破壊しない配筋量を定め、基礎柱型断面仕様を決定しております。

従って、設計応力値がジャストベース (JE II 型) の定める M-N 降伏耐力曲線の範囲に入る場合においては、柱脚毎に定められている標準仕様の範囲内であれば、基礎コンクリートは破壊しないと考えます。